

広島かきの生産・出荷状況及び今後の対策の検討状況について

1 概要

4月3日時点の令和7年度シーズンの広島かきの生産・出荷状況及び今後の対策の検討状況について報告する。

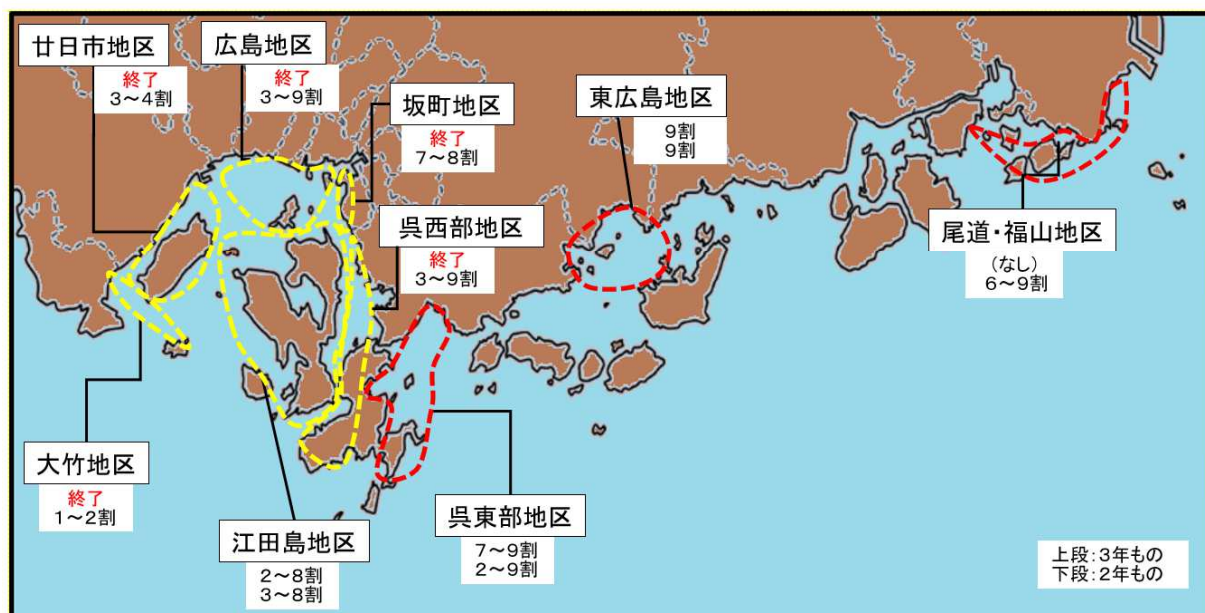
2 生産・出荷状況

(1) 調査方法

生産者や漁協から聞き取り等により、シーズン初めから出荷している3年養殖かき（ノコシ）と、主に年明けから出荷している2年養殖かき（ヨクセイ、イキスなど）について現在の状況を把握した。

(2) へい死の状況

令和7年度シーズン かきのへい死状況(4月3日時点)



ア 西部地区

- ・ 3年養殖かきの出荷は終了している地区が多く、主に出荷されている2年養殖かきについては3年養殖かきと比べるとややへい死割合は低いものの、平年と比べると高い値となっている。
- ・ 海水温が低下した1月以降には、新たなへい死は見られない。

イ 中東部地区

- ・ 西部同様に2年養殖かきのへい死割合は、3年養殖かきと比べると低く、また1月以降に新たなへい死は見られない。

(3) むき身かき出荷の状況

ア 西部地区

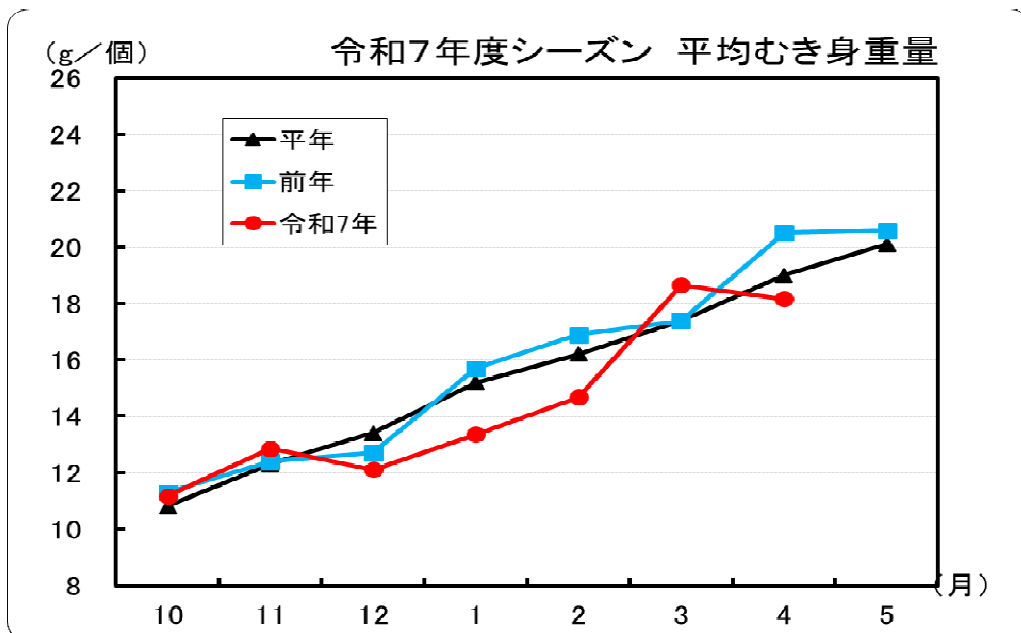
- ・ 2年養殖のかきを中心にむき身出荷している。
- ・ 多くの生産者は、平年の1.5倍程度を水揚げしているが、へい死が多いため、むき身かきの出荷量は平年の半分程度となっている。

イ 中東部地区

- ・ 依然として3年養殖かきを中心に水揚げをしているが、一部の生産者は2年養殖かきの水揚げしている。
- ・ 多くの生産者は、平年の2倍程度を水揚げしているが、へい死が多いため、むき身かきの出荷量は平年の3割程度となっている。

(4) かきの身入りの状況

県が実施している調査において、むき身重量は12月から2月まで平年を下回っている状況であったが、3月以降、平年並みに回復してきている。



3 原因分析及び対策の検討

(1) 広島県かきへい死に関する有識者会議における検討状況

原因分析及びその対策を検討するため、かきなど二枚貝の特性や漁場環境等に関する学識経験を有する専門家による有識者会議の第2回目を3月25日(水)に開催した。

この会議においては、へい死の要因として、疾病や赤潮による可能性が否定され、へい死時期のかきは成熟又は産卵直後でストレス耐性が低下した状態にあり、ある特定の要因ではなく、高水温・高塩分・貧酸素・餌不足・産卵期の長期化による複合的な要因によって引き起こされたのではないかとの見解で一致した。

(2) 今後の対応

令和8年5月中下旬に予定している有識者会議では、へい死の原因に関する暫定意見を取りまとめるとともに、かきの吊り込みが本格化する6～7月から、へい死防止対策に向けた現地実証に取り組めるよう、環境ストレスを把握するためのモニタリング強化や、へい死リスク回避に向けて生産者が実施可能な対策について検討される予定となっている。

令和9年3月には、へい死の原因と今年度の対策の効果を踏まえたへい死防止対策について、有識者会議の最終意見が取りまとめられる。